

7月20日

テーマ：「へりくだって神とともに歩む」

聖書箇所：ミカ書 6章8節

◆今日のみことば

主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。

ミカ書6章8節

◆メッセージ

私たちは、毎日のニュースで政治家など偉い人たちが自分のためにお金を使ったことが報じられたり、時には逮捕されたりすることをテレビなどで見えています。そのようなニュースを聞くと、本当に残念ですし、この世の中で何が正しいのか、考えてしまいます。

預言者のミカさんの時代も同じようでした。その中でミカさんは「公義を行い、誠実を愛」することが神さまの求めていることだと言っています。「公義」とは何でしょう。それは神さまの前にすべての人を公平に扱うことです。力やお金のある人々ばかりが得をするような世の中であってはならないのです。しかし、実際には、神さまに仕えるはずの祭司や預言者という人たちも、お金ほしきで正しさを曲げていました。また「誠実」とは決して変わらない神さまの愛をもって人を愛し、親切にすることです。しかし当時の人々は、自分の身を守るために、平気で人を裏切っていました。「神を愛し、隣人を愛する」という大事な戒めも忘れられ、この愛もミカさんの時代には見られなかったのです。

私たちが生きていく時代はどうでしょうか。自分の得ばかり求め、盗み、万引き、いじめ、自分を守るための嘘、人を見下して自慢・高慢・・・こんな中、「公義を行い」「誠実を愛する」ことができていくのでしょうか。こんな時代の中、みんなと同じようにしたくなってしまいそう・・・でも、

神さまが正しいことだよ、と教えてくださっている歩みをしたいですね。それは、「へりくだって神と共に歩む」ことです。正しくもなく、愛もないのにまるで正しい者のように歩むのではなく、神さまの前で自分には正しさも愛もないことを認めることがへりくだることです。自分の罪を認めるへりくだりの中で神さまを礼拝していくこと、従っていくことが私たちに望まれていることなのです。

私たちはへりくだり、神さまを礼拝し、共に歩む中で、このような闇のように暗い世の中にあっても、神さまの正しさへ、隣人を愛する者へと変えられていくことができます。

◆お祈り

「神さま、公義を行い、誠実を愛することが難しい時代ですが、へりくだって神さまと共に歩むことができますように。」

(衣笠中央キリスト教会 三浦峰人)

